

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

～ウメ「南高」の低樹高化技術による省力化栽培実証～

農業水産振興課では、うめ研究所、JA紀州、みなべ町と連携して現地実証園（みなべ町熊瀬川地区、同清川地区）を設置し、ウメ「南高」の低樹高化技術（カットバック処理）確立による青梅生産性の向上に取り組んでいる。

カットバック処理は、樹高や着果位置が低下し青梅収穫等の作業が容易となるが、結果枝が減少し翌年の収量が低下する問題がある。

そこで、新梢の摘心処理を組み合わせることで、徒長枝となる枝を結果枝化し、収量の向上を図るとともに、冬季のせん定作業の省力化も図る。

熊瀬川実証園（設置3年目）は4月24日に、清川実証園（設置1年目）は4月28日に新梢の摘心処理（1次）を実施した。

処理作業に充電式の電動バリカンを用いることで、主枝や垂主枝の背面から出ている新梢を10cm程度に摘心する作業に要した時間は、1樹あたり約15分と、手作業に比べて大きく時間短縮ができた。

今後は、現地研修会の開催等を通じて、当該技術の普及に取り組む。



熊瀬川実証園（設置3年目）の摘心処理



清川実証園（設置1年目）の摘心処理